

「がん対策における進捗管理指標の策定と  
計測システムの確立に関する研究」

## 策定指標測定 of 進捗について

平成26年12月12日

がん対策における進捗管理指標の策定と  
計測システム of 確立に関する研究班

研究代表者：若尾 文彦

canpi@ncc.go.jp

# 全体像：がん対策の指標策定に関する3つの研究

<p>がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究</p>	<p>がん対策における緩和ケアの評価に関する研究</p>	<p>がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究</p>
<p>代表：若尾文彦</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>分野別施策(右班担当部 分以外)を対象に協議会委員と専門家の総意により策定</li> <li>全体目標(療養生活の質の向上)の評価方法を確立</li> <li>既存の指標に関しては収集し公表</li> </ol>	<p>代表：加藤雅志</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>緩和ケアの指標を協議会委員と専門家の総意により策定</li> <li>既存の緩和ケアの指標により測定、その動向を、質的、量的に検討</li> <li>患者・医師・看護師、他の医療者へのインタビュ-</li> </ol>	<p>代表：細川豊史</p> <p>がん疼痛緩和の好事例収集により、疼痛緩和について一般化された政策提言を行う</p>

代表者：敬称略

- 第43回 4月23日 策定指標の報告
- 第44回 7月2日 策定指標と基本計画について
- 第45回 9月19日 予防・検診指標

# 第2期がん対策推進基本計画(平成24年6月)

重点的に  
取り組む  
べき課題

1. 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とこれらを専門的に行う医療従事者の育成

2. がんと診断された時からの緩和ケアの推進

3. がん登録の推進

4. 働く世代や小児へのがん対策の充実

全体目標

がんによる死亡者の減少  
(75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少)

全てのがん患者及び家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上

がんになっても安心して暮らせる社会の構築

医療分野

1. 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実
2. チーム医療の推進、がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成
3. 地域の医療・介護サービス提供体制の構築(地域連携パスなど)
4. 小児がん、希少がん、病理診断、リハビリテーション

50(3,7)  
16(1,1)  
22(0,1)  
5(0,3)  
7(2,2)

研究開発分野

1. 医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組
2. がん研究

11(0,0)  
6(0,0)  
5(0,0)

社会分野

1. がんに関する相談支援と情報提供
2. がんの教育・普及啓発
3. がん患者の就労を含めた社会的な問題

15(3,2)  
10(0,0)  
1(3,1)  
4(0,1)

計測指標76(試行6,困難9)

## ①分野別施策

# 指標の情報源分布

情報源	測定指標数	困難+ 試行
拠点病院調査	28	1
拠点病院現況報告	13	
拠点以外の医療施設調査	2	2+1
患者診療体験調査	11	1+2
院内がん登録/DPC/しせプト	7	1
PMDAへ依頼	5	
独自問い合わせ（厚労省・研究主体など）	10	2+2
遺族調査		3
<b>計</b>	<b>76</b>	<b>9+6</b>

 現況報告書に追加

 患者体験調査に追加

 他研究班調査に含めるよう調整

# 患者体験調査

## 全体目標

- 1 がんによる死者の減少

- 2 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上

- 3 がんになっても安心して暮らせる社会の構築

① 医療の進歩

② 適切な医療提供体制

③ 適切な情報提供・相談支援

④ 経済的困窮への対応

⑤ 家族の介護負担の軽減

⑥ がんになっても孤立しない社会の成熟

## 全体目標から抽出した 19項目

① 医療が進歩していると感じる 問1

② 必要な医療が切れ目なく提供されている（痛みのコントロールなど） 問2,3,6,8

② 納得できる治療が受けられている／尊重されている 問7,9

③ 十分に情報が提供されている、相談できる環境があると感じる 問10-13

② 自分らしい日常が送れている／見通しが持てている 問4,5

④ 経済的な理由により治療を断念することがない 問14

⑥ 社会の中に居場所がある 問18

⑤ 家族に過度な介護負担をかけることなく療養できる選択肢がある 問15,16,17

⑥ 病気と向き合えている 問19

## 分野別施策から抽出した 13項目

## 緩和ケア評価班から 3項目

## 患者体験調査質問票

1. 質問票の作成
2. 国立がん研究センター患者・市民パネルに対する質問票のプレテスト
3. 質問票の修正
4. パネルに対する再テスト
5. 質問票の再修正 【別添資料1】

# 現況報告書

1. 新規項目を作成 【別添資料2】
2. 追加が必要な項目を平成27年度現況報告書書式に追加  
依頼
3. がん対策・健康増進課から都道府県に発出
4. 都道府県から提出（提出期限：10月31日）

12月8日時点

現況報告書 入手済 45道府県

# 患者体験調査

1. 施設数の見直し
  - 都道府県当たり1地域拠点を2地域拠点に
2. 対象数の見直し
  - 若年者、希少がんを確保、非がん例も追加

若年がん患者 (19歳～40歳 未満)	希少がん患者	その他のがん 患者	がんではない 患者
全例または最 大15名	全例または最 大15名	75名	5名

3. 調査施設の選定・依頼
4. 調査施設からの回答状況【別添資料3】
5. 協力施設において院内掲示、ホームページ掲載などを  
開始

